

第8回交流部会（3/14） 議事録要旨

富士宮市の「やきそば学会」の取り組みのようにお金をかけなくても、口コミが有効な宣伝手段となる。豚丼のエピソードやストーリーを作り、遊び心で伝えていくとおもしろい取り組みとなる。宣伝の仕方として、参加しているメンバーが楽しんで行動しているとメディアからも注目され、市民の間でブレイクしていくものである。

帯広の豚丼を東京でも再現している店もあるが、豚丼は、やきそばと違って広がり小さい。

豚丼の開発にまつわる年表をエピソードも添えて作成したり、お店を調べてみると良いのではないかと。

「豚丼発祥の地」のお墨付きを与えたり、家庭の味を含めて紹介すると良いのではないかと。

スイーツ王国サッポロを立ち上げた人に話を聞いたことがあるが、JTBとタイアップした事業でもあるが、グランプリを取ったスイーツのレシピを作り、参加したお店でも同じスイーツを作るという活動を展開すると、必ず食べ歩きをする人が発生すると伺った。豚丼や菓子にも応用できるのではないかと。

なぜ、帯広が豚丼発祥の地となったのか。米、豚肉（原材料）も地元産と違うのに帯広で広まったのか。今一度、豚丼再生プロジェクトを実施してみると良いのではないかと。豆腐マップを作ってみてわかったことだが、産地といっても十勝の大豆を使っていないところもある。輸入大豆と比べると、原料で4倍、商品で2倍の値段となる。

十勝のナチュラルチーズを買える場所、おいしく食べさせてくれる店がないので、地名度をあげるためにも1箇所まとめて宣伝する必要がある。

豚丼については、開発した人たちや市民を巻き込んで豚丼談義をしてみると良いのではないかと。

食に関しては、チーズフェスティバルや豚丼まつりなど知名度を高めるイベントを実施し、客に興味を持ってもらうことが理想である。

オール十勝大収穫祭と併催して豚丼まつりを開催してはどうか。ただし、誰からも親しまれるキャッチコピーやキャラクターが必要である。

食に関するイベントを通じて、「見る」、「食べる」、「遊ぶ」を実践し、食の王国としてPRすべきである。

観光情報はネットを活用することにより、情報の価値は高まるので、色々な観光マップやパンフの提供についても盛り込むべきである。

十勝観光連盟において、ホスピタリティ研修等を実施しているが、旅館組合の場合、ビジネス客を対象としており、経営者として、観光客を迎え入れるもてなしの意識は確かに薄いという印象がある。

帯広は観光地であるという意識はない。訪れたい人は大勢おり潜在力はあるので、意識をどのように高めていくかが課題。

コンシェルジュ（案内人）のいるホテルが市内にはないので、駅に専門的な知識を有する人を配置し、マップを揃え案内してはどうか。

観光情報センターを新しくするだけでは人は育たない。観光ボランティアを上手く活用するには表彰制度を設け、頑張った人は表彰することが大切である。

行政や観光協会においては、マップ作成やガイド業務はどうしても限界がある。

ネット上で、現在の観光ルート、コースをいくつか紹介していただくと、ホテルで検索し、お客さんに紹介し、印刷してマップを提供できる。画一的だがレベルアップにつながる。

タクシー協会が観光ルートを紹介したリーフレットを作成し、料金や時間も表示しているものがある。

札幌市では民間のノウハウを活用し、ウェイブシティ札幌と市のホームページでリンクしており、民間のお勧めスポットや評価を導入している。

空港からのタクシー料金を業界側は明らかにしてくれない。中札内方面は乗車拒否さえある。

メーター料金の目安を示すのは当たり前のサービス。

四季折々の季節の花の時期を示したマップは女性に有効な宣伝手段となる。

観光ボランティアを地域でどのように盛り上げていくのが課題。

エリアマーケティングでは、全体の5%の人はすごく関心がある人がいるが、これを20%にまで高められればすごく盛り上がった状態となる。

前回の部会で氷室の話題があったが、地元でノウハウのある企業があり、ランニングコスト（電気料）がかからず、活用しない手はない。出来れば、中心

部に設備を設置したいと考えている。

料理として提供する場合、野菜の撥ねものも活用できる。

飛行機からの十勝の田園風景を観光ポスターや観光 DVD に活用し、ダブルト
ラッキング実現のため PR すべきである。

畑のパッチワークが見られる空港として PR すべき。

近く、帯広空港で空中飛行がセスナ機で楽しめることになる。料金は 15 分
で 5 千円程度である。

エア・ドウが他の道内空港より就航が遅れた理由はなぜか。

エア・ドウは A N A の系列を引くため、帯広に A N A がなかったことが一番
の理由である。

北海道では新千歳空港のひとり勝ちの状態であり、東北北海道の空港が連携し
て、航空運賃の値下げの交渉にあたる必要がある。

以 上